陸平通信

OKADAIRA
第Ⅱ期 105号
2021年3月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291　FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

クイズにチャレンジして美浦村の文化財に親しもう！

たくさんの文字が書いてあります。それぞれ文字の続きに入る文字は何でしょう。
①～⑦はそれぞれ同じ文字が入ります。

①宮脇、陣屋敷、陣屋敷低湿地、根本、御霊平、久返り北、久返り南、花立、多古山、天神平、ミコヤ、押井戸、本山、向地、松作、トチ郎内、綿打北、綿打南、打越北、打越南、木の根田、内出、宮前、宮後、下の下、大輪、法堂、端山、源氏内、榎下、間野平台、太田門、息栖、高峯、根火前、山内入、大塚平山、大塚杉山、余郷浜、木曾ノ内、宮地、突之宮、宮地天神、茂呂堀立、久保ノ内、茂呂後田、岸内、木原二本松、大舟戸、木原根火山、木原新宿、御茶園西、御茶園、木原門前、迎平、茂呂天神、八ケ山、請領妙山、刈満田、野中、天王後、原南、原、清月、荒地、木原台、北ノ窪、城ノ内、六所、舟子宮平、浅間台、殿田、七曲り、鍛治内、布佐谷津、木原神田、木原平塚、柿平、摩迦陀東、摩迦陀北、摩迦陀、笹山、上ノ内、興津神明、中根台、稲荷山北、十三塚、稲荷山、原畑、高野台、醒ヶ井、巽久保、信太宮平、大作台、信太平台、西山東添、大谷谷津台、興津白井、大清水、木原長峰、池端、大日、請領八枚、信太入子ノ台、野中東

②薬師堂、仏国寺、木原館

③陸平、平木、興津、虚空蔵、信太、大谷

④木原、大谷根古屋

⑤トチロ内、大日、濱田庚申、稲子田、大谷狐、木原石神、池ノ潟庚申、経

⑥山王山、茂呂カリマタ、大谷八幡台、木原行竹、城山、東崎

⑦大塚、茂呂根本台、大須賀津、木原白籏、八枚原、木原原、木原清月、舟子塚原、常陸笹山、信太美駒、沢田

体験のごあんない

文化財センターでは文化財に関わる体験ができます。事前申込みで受け付けています。まずはお気軽にお問合せください。

なお新型コロナの感染状況等によりご希望に添えない状況が生じる場合もあります。

◆体験メニュー

土器、ミニ土器、縄文食、縄文クッキー、まが玉、さき織り、どんぐりカレンダー、どんぐり時計、貝塚調べ

◆お問合せ・申込み

文化財センター　☎８８６－０２９１　※月曜休館

イノシシ注意

陸平貝塚公園内ではイノシシ捕獲のためにワナをしかけてある場所があります。目印で表示してありますので、進入しないようにお願いいたします。イノシシは夜間に行動していることが確認されています。

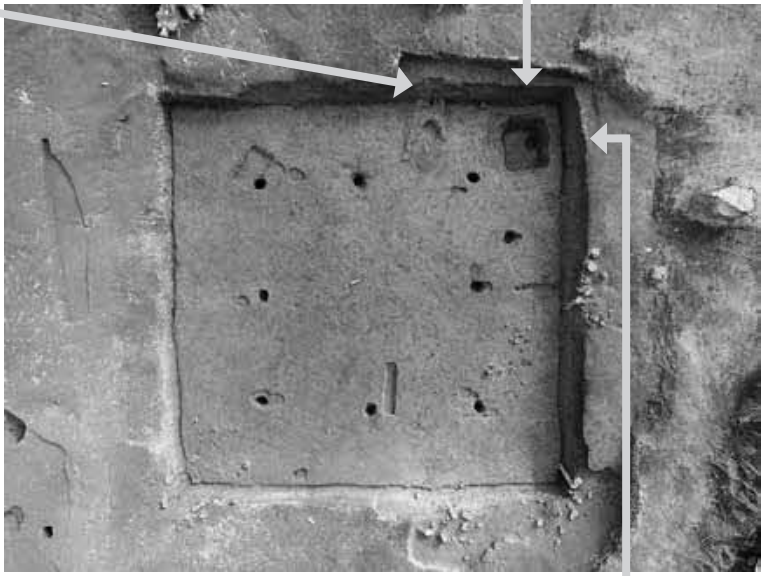
芋で命をすくった陸平がいまは文化の宝庫なり　（日和吟社俚謡集より）

～野中東遺跡～

▲貯蔵穴付近から
カメ形の土器が出土

▲住居のカマド
（カマドの形がよく残っていませんでした）

▲住居のカマド周辺から土器片などが出土



▲一辺約９ｍの古墳時代の住居址
（真上から。上が南東方向）

▲空から見た野中東遺跡

▲発掘の様子

床からこの高さまで
土で埋まっていました

野中遺跡

平成５・６年（１次）、平成 10 年（２次）と２度にわたり発掘調査が実施されました。遺跡は 125 線バイパス沿いの台地平坦部に広がり、弥生時代後期の住居跡、古墳時代中期から後期にかけての住居跡・掘立柱建物跡・円墳等が検出されました。土器をはじめ紡錘車、鉄鏃、刀子、ガラス小玉、滑石製模造品などが出土しています。

遺跡発掘調査速報！

今回は昨年12月から今年1月中旬にかけて発掘調査がおこなわれた
野中東遺跡をご紹介します。

野中東遺跡は店舗建設にともない新たに確認された遺跡です。遺跡の場所は美浦中学校、ドラッグストアと道路をはさんで隣接する125号線沿いの山林だったところです。ちょうど信号のあるT字路にもなっていますので通りすがりに発掘調査の様子を見かけた方もいたことでしょう。

この場所は、国道125号線バイパスの通る南東側から大きく谷が入り込む地形で、谷頭に現在スーパーストアやドラッグストアがあります。スーパーストアの場所は平成10（1998）年に「野中遺跡」として弥生時代から古墳時代の集落跡が調査されています。今回の調査地はその東側に位置しており、台地縁辺部の傾斜地にあたります。

発掘調査の結果、縄文時代の住居跡1軒と遺物の集中する竪穴状の跡が1か所、そして古墳時代の住居跡1軒を発見することができました。

縄文時代の住居跡は、「炉（ろ）」という火を燃やした跡を中心に柱を据えた小穴が巡るもので、約5,000年前と想定されている縄文時代中期（阿玉台（あたまだい）Ⅱ式（にしき））の土器片が出土しました。また、竪穴状の跡から出土した遺物も同様の時期の土器片であることから、縄文時代中頃にはすでにこの場所で生活が営まれていたことがわかりました。

古墳時代の住居跡は、四角い形状に掘り込まれた竪穴住居で、一辺の長さが約9ｍもありました。この時期のものとしては大型で、あまり例がありません。住居跡は、発見された場所が山林であったため良好な状態で保存されていたと思われ、調査する前からその部分は周囲より大きく窪んでいました。窪んでいた理由としては、住居跡の掘り込みが深く、またこの場所が高台で周りから土砂などが入りにくい環境にあり、埋没しきれなかったためではないかと考えられます。

そして古墳時代の住居で特徴的なのは、住居屋内に設置されたカマドと言われる、火を焚いて煮炊きするための調理施設です。

古墳時代の後半になって作られ始めたカマドは、普及し始めると北側の壁に付けられるのが一般的ですが、ここでは南側の出入りする場所のすぐ脇に設けられています。また、火を燃やした際に発生する煙を排出する穴（煙道と呼ばれます）は、時期が新しくなるにしたがい屋外へ煙が出ていくようにカマドから住居の外に向かってトンネル状の掘り込みを作るようになりますが、この住居跡ではまだ屋内にありました。

縄文時代から続く「炉」は、人びとが暖をとるだけではなく、住居内の採光、加熱調理の機能などを併せ持っていました。それに対し、古墳時代に入ると次第に「炉」が作られなくなり、代わりに効率の良い調理機能に特化したカマドへ移り変わっていきます。野中東遺跡の住居はカマドがつくられ始めた時期のものであると考えられます。

阿見町東部工業団地の場所でかつて発掘調査がおこなわれた星合（ほしあい）遺跡では、野中東遺跡と同様のカマドの配置を持つ住居跡が多数確認されていることで知られています。それらの住居は、出土した遺物から5世紀末～6世紀前半の時期とみられ、前述した野中遺跡でもほぼ同じ時期の土器を伴った住居跡が確認されていることから、同時期の集落がこの地域に展開していたと想定されます。その中でも今回調査した野中東遺跡の住居跡は、ほかの遺跡の住居跡より大型であり、さらに野中遺跡とは谷を挟む対岸に位置していることから、居住以外の別の目的で利用された可能性もあります。野中東遺跡は、隣接する野中遺跡との関わりやこの地域の古墳時代のあり方を知るうえで非常に興味深い遺跡です。

※野中東遺跡の紹介にあたりましては株式会社地域文化財研究所の協力を得ました。

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は「こ」「た」「ま」

古代米　そば　しいたけ　おいしいね
田んぼでは　蛙がすいすい　泳いでる
満腹だ　光一点と　美浦そだち

霞ケ浦に囲まれている美浦村では毎年美味しい米が作られています。立春を過ぎると田植えに向けた米作りの準備が始まり、田植え、夏の草取り、秋には黄金色に実った稲穂の稲刈りと、主食を米とする日本では各地で米作りの風景がみられます。

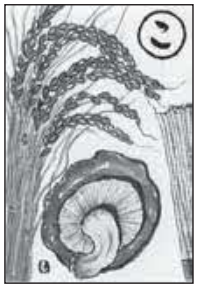
現在、田んぼの大きさは耕地整理により、より広く大きくなり、機械での作業がしやすくなっています。また灌漑排水設備の整備による田んぼの水の調整や湖岸の堤防整備により台風や洪水など自然災害による田んぼの被害もとても少なくなりました。

ここで過去の記録や古文書、発掘調査などから昔の美浦村の田んぼの様子を少しみてみましょう。

昭和の時代、農業に携わる人が多かった頃は各々の家が田んぼを耕作していましたので1枚の田んぼの広さは現在よりも狭いものでした。また、大正時代末期頃から灌漑設備が整い始めましたが、それ以前は村内各地に造られた大小の溜池が田んぼの水に利用され、なかでも安中地区にあった蔵後池は特に大きなものでした。田んぼにとって水は大変貴重でしたので、時には溜池の水をめぐりいさかいが起きることもありました。

かつて湖岸沿いはアシやヨシなどが生い茂っているエリアでしたし、村内各地には畑地として利用された土地が今よりも多くみられました。

弥生時代に大陸から伝わった米作りの技術は代々伝わって現代に続いています。古代米とは赤米と呼ばれているうるち米で、長い間神社などの奉納のために作られ続け今に伝わってきました。弥生時代の集落跡は村内でいくつもみつかっていますが、水田の跡はまだ確認できていません。ちなみに陣屋敷低湿地遺跡で平安時代以前に耕作された古代の水田面が確認されているのが美浦村では唯一の調査事例です。弥生時代は従来の紀元前3世紀から3世紀までという年代が近年変わりつつありますが、あくまでも仮に紀元元年から作り始めたとすると今年は2021回目の米作りということになります。



P1のクイズの答え

①遺跡　②跡　③貝塚　④城址
⑤塚　⑥古墳　⑦古墳群

これらはすべて村の遺跡地図に登録されている遺跡の名前です。たくさんありますね。現在登録されている遺跡は145ヶ所あります。遺跡の名前は、主に小字名が使われています。

文化財センターにご来館される皆様へお願い

新型コロナウイルス感染拡大予防のためご協力をお願いいたします。

・マスクのご着用
・文化財センターの出入り口にて手・指の消毒
・体調がすぐれない場合はご来館をお控え願います。